

SIX BOX EXHIBITION

- 6つの視点から読み解く伝統工芸 -

SIX BOX EXHIBITION は、伝統工芸の分野で活躍する方の作品などを6つの箱を用いて展示し、丹南地域の伝統工芸産業の魅力を紹介する取り組みです。モノだけではなく技術や環境・職人の想いなど、ひとつの面だけではなく多面的に伝統工芸を知ることによって、立体的にその魅力が浮かび上がってきます。6つのテーマをもった箱の中の展示を、さまざまな角度から、ぜひじっくりとご覧ください。



初代 久太郎	2代目 孝一	3代目 久直	4代目(現在) 晴奈	越前塗のストロー「sq。」	家紋
<p>大正12年1923年石川県江沼郡山中町で創業、木製の菓子器や椀類を製造していた。昭和6年山中の大火に見舞われ、河和田へ移住し当地では木製の椀類を主に製造していた。当時は滋賀県に木地工場を設けるなど木製品の需要が多かったことが伺える。当時の製品は文化的な香りのするデザインで玄人向けに製造されたものが多かった。</p>	<p>昭和28年就業。当時は戦後の好景気により企業の記念品等、まとまった数量の椀類が製造されていた。また、結婚式の引き出物や記念品等、漆塗りの椀類はとても人気だった。</p>	<p>昭和48年入社、先代の後を受け継ぎ椀類を製造。家紋の入った調度品が人気を拍し自社で蒔絵の家紋入れ作業をしていた。椀類の需要が少なくなり始めた頃、重箱や屠蘇器、雑煮椀等の迎春用品を製造する。</p>	<p>2005年、平成17年入社、当時はウェブshopの管理をしながら漆器業を学ぶ。今までにない漆器や産地の技術を使って新しいもの作りた」と模索中。</p>	<p>仁愛大学さんとのコラボ品「sq。」は人間学部コミュニケーション学科の吉田真那さんの思いを形にしたストロー。木地から地元の技術を使いたいという思いから地元の角物木地師、井上徳木工所さん作成。とても繊細な技術で作られている。塗は漆塗とウレタン塗の2パターンで作成。「sq。」にはストローの飲み口の形「四角」squareを表す頭文字のsqと漆器久太郎の頭文字を、そして最後のピリオドには、プラスチックストローを使わないという思いを表したピリオドが入っている。</p>	<p>年の初めや人生の門出や終わりにには必ず家紋がどこかにあるもの。祝う心や家を大切に思う思いは漆蒔絵や沈金で家紋を入れ形になる。家紋は日本の文化や歴史と触れ合える素晴らしいデザインであり、これらに携われることに幸せを感じる。</p>



漆器 久太郎
JAPAN WARE

曾明 富代

Tomiyo Somei

漆器のことは何も知らずに嫁ぎ、家事と家業に従事して早42年が過ぎました。今でも知らないことは沢山ありますが、産地が育んだ人や技術はとても素晴らしく、興味深く暖かいものばかり。そして、この地から生まれた物は、私たちに安らぎや感動を与えてくれます。これからも、この地で生まれる製品の素晴らしさを伝えられるよう日々邁進してまいります！



曾明 晴奈

Haruna Somei

生まれも育ちも漆器屋(友人も漆器屋)漆器が身近すぎて価値が分からないままだったが3年間県外で過ごして帰ってきた際に、やっとこの産地があたりまえで無く面白い環境だったと気付く。web ショップで漆器のPRや販売ページを作るしごとで、家業を手伝うようになり、今では商品作りも手掛ける。「無いなら作ろう」が信念。

